

（約）住者ってどんなひと？
（南相馬の）
（かっこいい）
おとな手帖



Uターン

郡山市 → 南相馬市

おとな手帖

No.07

農業は夢のある仕事

頑張れば頑張った分だけ返ってくる



今回のカッコいい大人

えんどう どものぶ

遠藤 知伸さん (31)

南相馬市鹿島区生まれ

お仕事 株式会社
原町中央青果市場

移住歴 2014年～

18歳

郡山市の
日本大学工学部に
進学

22歳

大学卒業後就職の
ため南相馬市へ
Uターン

26歳

二度の転職を経て、
現在の株式会社
原町中央青果市場
に就職



朝の市場で競りを行う遠藤さん



八百屋さんや卸売業者さんと野菜の状態を確認





遠藤さんに Q & A 聞いてみた!



Q1. 遠藤さんがしている仕事を教えてください。

A. 営業という形にはなりますが、地物の野菜の競りや販売、この地域にはない野菜は中央卸売市場から買いつけて、地元の業者さんに翌朝販売します。仕事がおわった後は、実家の農業の手伝いです。

市場に買いに来る方はほとんど地元の業者さん。少量は仲卸さんからスーパーに販売しています。「あの人に頼めば大丈夫かな」と私を信頼して野菜を注文してくださるのがありがたいですね。

南相馬市にUターンしたきっかけは震災があったことです。私の家は被害はありませんでしたが、なじみのある沿岸部の姿が津波により変わってしまったことや、原発事故による風評被害で南相馬市の農家の皆さんが苦勞しているのは悲しいです。地元で仕事をしながら、この南相馬市が5年後10年後どう変わっていくのかを見ていきたいです。

Q2. この仕事に就いた経緯をおしえてください。

A. 私は幼い頃から野菜作り、お米作りなどの「農業」が身近にあったので、自分もやりたいと思っていました。たまたま就職先を探している時に原町中央青果市場の求人があって、応募して採用を貰いました。

この仕事を意識したのは両親が頑張っているのを目にしていたから。だからこそ親の代で農業を止めなかったんです。やったらやった分だけの収入があるのが農業です。実家が農家とはいえ分からないことも多いので、原町中央青果市場で流通の面やいろいろな野菜を見て目利きになりたいです。「自分もこういう野菜が作りたい」と学んでいます。農業経営は会社と同じで生半可な気持ちではできないのは間違いないけれど、現在の仕事の経験や関わる人たちからいろいろと学んでいきたいです。



編集後記

「いつまでも追いかけることができ、頑張ったら頑張っただけ自分に返ってくる、夢のある仕事だ」と仰っている姿から農業が魅力的だと改めて分かりました。また、農業高校生として農業に携わる方にインタビューできて勉強になりました。



（遠藤さんの暮らし・仕事について
さらに詳しく！）

Webサイトの記事はこちら→



わたしが記事にしました！



佐橋 百合子

相馬農業高校 2年

My favorite Minamisoma
南相馬のお気に入り

南相馬の海

The sea of Minamisoma

南相馬の海は
夫婦のお気に入り



南相馬の海には思い入れもあり、やっぱり好きですね。18歳で自動車運転免許を取ってからは、毎年北泉海岸に初日の出を見に行くのが恒例になっていました。鳥崎海岸は、震災後景色は変わりましたが、風力発電の風車が4基並ぶ風景もきれいだと言われ、周りに自慢したくなります。南相馬の海は夫婦のお気に入りです。

OKINORI

移住者ってどんなひと？
南相馬の
カッコいい
おとな手帖 って？

南相馬市には他地域から移住し、自分らしくかっこよく働くおとなたちがたくさん暮らしています。

彼らが「今、ここにいる理由」はさまざま。夢を叶えるため、誰かと共に生きるため……。それぞれの物語を紐解いていくと、多様な南相馬の魅力に気づきます。

「移住者」に会いに行くのは、南相馬市で育った高校生たち。自分たちには当たり前な環境も、移住者のみなさんの視点を借りると、なんだか違って見えてくる！

Publisher：南相馬市役所 移住定住課

Direction：marutt Inc.

Editor：小野民、高橋慶香、佐橋百合子

Designer：高木市之助

Photographer：鈴木稯蔵

南相馬で自分らしい暮らしを
実践している先輩移住者がたくさん！

南相馬市 移住者インタビュー Webサイトはこちら→

